

第3回生駒市総合計画審議会（第二部会）会議録

開催日時 令和5年10月5日（木）13時30分～16時10分

開催場所 生駒市役所4階 大会議室

出席者

（委員）久部会長、田中委員、楠委員、鐵東委員

欠席者 山上委員

（事務局）小林市長公室長、坂谷市長公室次長、増田企画政策課企画官、

牧井企画政策課課長補佐、桐谷企画政策課企画係員

（担当課）（市長公室）大垣広報広聴課長、古田広報広聴課課長補佐

（都市整備部）澤都市計画課長、内蔵住宅政策室長、有山拠点形成課長、

岸本拠点形成課課長補佐、秦学研推進室長、巽みどり公園課長、

紀之國みどり公園課課長補佐、高橋花のまちづくりセンター所長

（建設部）西岳管理課長、堤管理課課長補佐、谷事業計画課長、

浜田事業計画課課長補佐、山本事業計画課課長補佐、

駒井土木課長、前田土木課課長補佐、井上営繕課課長補佐、

東浦営繕課主幹

（上下水道部）池田総務課長、伊藤総務課課長補佐、岡村工務課長、

細谷下水道課長、花井竜田川浄化センター所長

（事業者）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 島崎主任研究員

議事内容

1 各論の素案について

【事務局】（開会宣言、配布資料確認、出席者紹介、各課から概要説明）

以下、発言要旨

基本的施策13 都市基盤

【久部会長】（1）都市環境の整備について、コンパクトシティに向けて、立地適正化の話もあるが、これは（1）①の内容の中に含まれるという理解でよいか。

【都市計画課】 4年間の取組の中に含まれる。

【久部会長】 他の内容にも当てはまるが、生駒ならではの課題や方向性等が、もう少し表に出た方がいい。

(1) ①でいうと、用地地域の見直しについて、総合計画全体で、脱ベッドタウンを目指しているので、職住一致や職住近接、様々な事業者を受け入れるといった書き振りの方が、より生駒市らしい。

もう一つの柱が、ストレートに広がりすぎた市街地をどのようにコンパクトに持っていくかということ。時間はかかるが、常に視野に入れておく必要がある。そのあたりが見えづらいので、もう少し表立って書いておく方が、より方向性が共有できる。

②について、もう少し住生活や居住環境の要素が見えるとよい。国も昔は住宅マスタープランと言っていたが、今は住生活基本計画という書き振りに変わっている。住宅というハードをどう整備するかどうかだけではなく、住生活を充実するというような書き振りがあってもよい。

特に脱ベッドタウンを目指したときの住宅供給といった要素が、もう少し文章から読み取れると、生駒市ならではの文章になる。住生活部分と、脱ベッドタウンを目指しての住宅整備がどう位置付けられるのかということで、表現を検討されたい。

【鐵東委員】 空き家になる要因として、生駒に移り住んできた方の子どもが生駒から離れていることが大きな要因であると思う。昔は、駅から離れないと家を買えない、場所がないという状況であったが、現在は状況も変わり、駅から離れた立地に新しく住んでもらうことのハードルは高い。

そういう状況を踏まえて、店舗兼住宅を推進する等、単なる居住以外の可能性がある形で、空き家を埋めていくような施策を盛り込んでおくのが良いのではないか。駅から離れているがゆえの魅力、家・住まい以外のこともできるような要素をつけておくと、新しい雇用やビジネスが生まれる可能性がある。

【久部会長】 ①でいうと用途地域の見直し等を考えているが、第1種低層住居専用地域を第2種低層住居専用地域にして、そこに地区計画をかませ、適

切に事業所とか店舗が誘導できるようにするといった組み合わせ手法も考えられる。住民とまちづくりの方向性を議論した上で地区計画へ持っていくとか、そういう作業が必要になってくると思う。まちの将来像を地域のみinnで話し合い、その意見を踏まえて都市計画を見直していくような書き振りもあった方が良い。

【田中委員】 市営住宅の適正管理等による居住支援というところで、市営住宅の建て替えはどの程度進んでいるのか。居住支援というのは具体的にどういうことか。

【営繕課】 市営住宅の建て替えの計画はない。古い建物で、生活スタイルや居住者も変わっているので、設備の改修等を通じて居住支援をしている。

【田中委員】 市営住宅は全戸でいくつか。市営住宅に空き家はあるのか。

【営繕課】 市営住宅が77戸、再開発住宅が7戸、全部で84戸。現在空き家はあるが、ウクライナ支援のために空けている。

【田中委員】 戸建てと共同住宅、両方合わせた持ち家の割合が8割ということだが、若い人で単身者のための住宅や共同住宅、マンションは少ないという認識でよいか。

【住宅政策室】 駅周辺の共同住宅には単身者向けのマンションもあるが、多くない。

【田中委員】 多様なライフスタイル、多様な住まい方という発想だと、家族連れだけではなく、若い世代の単身者、あるいは家族を持たない選択をした人への住宅供給も考える必要がある。

【住宅政策室】 生駒市のターゲット層はファミリー世帯や新婚世帯である。単身者向けの住宅は多くないが、駅周辺等には共同住宅もある。

特に充実していく必要があるものとして、新婚世帯では賃貸マンション、子育て世帯だと持ち家と賃貸両方である。本市に足りないものとしては、賃貸の共同住宅と賃貸の戸建て住宅で、充実させていく必要がある。

ると考えている。

【田中委員】 家族の形も多様化しており、いろいろな形、主体を求めるのであれば、住宅供給のあり方も、多様性を持たせるということも必要である。

【久部会長】 賃貸住宅が少ないために、若い人たちが生駒市から出て行かれるのではないかと、ということなので、行政として動きづらい部分ではあると思うが、不動産事業者や地権者も含めて、若い人たちが住めるような住宅供給に取り組んでいただきたい。

例えば、千里ニュータウンは、周りに複数の大学があり、留学生もたくさんいる。高齢化が進み、ひとり暮らしになった立派な戸建て住宅の2階に、留学生に下宿するといった例もあり、国際交流もでき、安心して住まいを展開できる。大阪市内では、別階段と別玄関のある2階建て2世帯住宅で、子ども世代が使わなくなった2階を賃貸で使うといった仲介をしているという話も聞いた。

このような情報を収集し、不動産事業者とも連携しながら、「様々な使い方ありますよ」と言っていたり、あるいはその住宅のオーナーに「この住宅はこういう使い方もできますけれども一緒にやりませんか」という働きかけがあると良い。その施策も検討しながら、住生活の記載方法を検討されたい。

【楠委員】 住宅に関する取組は進んでいると感じる。特に中古住宅に対して、建築士が同行し、実際に現地を見てアドバイスしながら内検することで、成約が増えているという話を聞き、素晴らしいと思っている。

全国的に中古住宅が放置されているという問題があるが、生駒市では少ないと感じる。生駒市は、様々な取組を進めているということを強調してもいい。

賃貸住宅について、生駒駅前等に大規模マンションが増えている。生駒は大阪に近く、非常に便利な場所であり、多くの若い人たちが生駒に住んでみよう、生駒に行こうという気持ちになるよう期待している。

【鐵東委員】 住環境をどうするか、ということだけではなく、生駒の魅力発信に住環境も連動していく必要がある。賃貸物件や希望者があったとしても、

選んでもらえなければ意味がない。選んでもらえるようなまちの魅力が必要であり、得なことがあるからというのではなく、純粋にこのまちの魅力や、利便性や住環境の良さというのをもっとPRして生駒に来ていただくことが大切である。

全ての施策と連動してくる話だが、PRがあって、そこに施策がしっかり紐づいてこそ、計画は前に進んでいくのではないか。そのあたりを意識しながらの住環境、住生活というところも考えていただきたい。

【久部会長】 今の郊外ニュータウンというのは1970年代に、当時の40歳代が望んでいた住宅地である。いわゆる閑静な住宅地の中に、手が届く適正な価格の住宅があったので、多くの人が入居した。現在の30、40歳代では、昔と異なる住環境を望んでいるのかもしれない。

ニーズの変化が、空き家の発生につながっていると考えられる。これから住宅購入を考える30、40歳代のニーズを捉え、どういう住宅やまちの魅力が選ばれるのかと考えるところを考えると良いと思う。

さらに、昔は新築がいいという方が大半だったが、今はリノベーションであっても、適正な価格で自分が住みやすいようにという若い方が増えている。

【久部会長】 (2) 学研都市づくりについて、先程、担当課長からの説明で、すごく重要な部分が文章になっていないと思った。地権者組織を立ち上げることは、長期的なエリアマネジメントを自分たちでやってほしいということであると思う。市役所が淡々と事業を展開するのではなく、自分たちが地域の将来像を考え、まちが完成した後も自分たちでマネジメントしていけるようなところを目指した準備組合の立ち上げだと思うので、そこを強調した書きぶりになるとやりたいことが表現できる。

もう一点、高山地区全体を見据えていることも重要である。第2工区の出発を進めるのは、第2工区を完成させることが目的ではなく、高山地区全体をより良くするために取り組むものである。高山地区全体の将来像を見据えた中での第2工区であり、第2工区の中の準備組合の立ち上げのようなストーリーにさせていただくために、説明いただいた内容を記載いただきたい。

第2工区はまだまだ時間がかかるが、おそらく脱ベッドタウンを標榜

した総合計画になってからの大きな開発だと思う。脱ベッドタウンのモデルになるような地区整備ができれば良いと期待している。

【久部会長】 (3) 道路の整備・維持保全については、担当課が多く、担当課が繋がってこそ意義があるというような書き振りが欲しい。例えば、国道、県道、市道が道路ネットワークを形成しているので、道路ネットワークを形成するために、各課の事業を動かしていくといった内容や、繋げていって安心安全な通行ができる道路ネットワークを構築します等の書き振りがあれば、各担当が連動して動いていることが分かる。

【田中委員】 最近、道路や歩道の陥没といったニュースを見掛ける。長寿命化計画で受けていると思うが、危険度のチェック等は市内でどのように進めているか。

【管理課】 職員が道路パトロールを行っている。路面の破損は5年に一度、路面性状調査という調査をしている。また、住民からの通報も多く、破損場所と状況写真を投稿していただく通報アプリもある。

【田中委員】 実際に様々な手段で危険度をチェックしているので、取組が市民の方に伝わるような記載をし、生駒市は安心だと思っていただくことが大事だと考える。

【鐵東委員】 市内には渋滞する場所もあり、住宅街が抜け道になっているところもある。事故が起きてからでは遅いので、予防の考え方が必要である。例えば住宅地のところは、スピードが出ないような方式にする等、道路環境の未来を見据えて進められたい。

【久部会長】 ハード整備がメインだが、もう少しソフト面の運用も含めるような書き振りにしてはどうか。生駒市内でゾーン30の指定箇所はどのようになっているか。

【土木課】 ゾーン30は4か所である。

【久部会長】 ゾーン30のような交通規制等を含めたソフト施策とハード施策が組み合わさるといような内容が読み取れると良い。

【久部会長】 (4) 安定的な上下水道の共有・処理について、ご意見等はあるか。

【各委員】 意見なし

【久部会長】 めざす状態について、どうしても自分たちが取り組む目指す状態、いわゆるアウトプットの状態になっている。つまり、整備・更新という自分たちの仕事が進んでいるという見え方になるので、そのことによって市民生活や暮らし方がどうなるのか、アウトカムが見える書き振りにしてほしい。例えば、整備、更新が進むことによって、安心安全な暮らしが実現している等、暮らしや社会がどうなるかという部分を付け加えるだけで、アウトカムの状況になる。その状態を目指してそれぞれの施策が動いていることであり、さらにはどこまで進んだかという評価が見えてくると思うので、書き振りを検討いただきたい。

【久部会長】 代表的な指標についてご意見あるか。複数の方々の担当だが、三つに絞られた意図とか理由はあるのか。

【事務局】 左のページの(1)から(4)の方向性を確認し、都市計画、道路、水道に関する内容を網羅的に設定した。

【久部会長】 暮らし方や社会の状況が評価できるアウトカム指標を考えていただく方がいい。

全体を通して、この施策もたくさんの部署が関係している。連携というものを大切にしていきたい。連携というのを、次の4年間意識しながら進めていきいただきたい。

基本的施策12 まちの空間づくり

【久部会長】 (1) 魅力あふれる都市拠点の形成について、文章の最後に「まちなみ空間や景観の形成を図ります。」と書かれているが、4年で達成して

いるイメージにならないか。検討を進めます等のレベルで止めておき、「4年後にここまで行きます」のようなイメージが良いと感じた。

【田中委員】 (1)に「目指すまちの姿を関係者と共有し」と書かれているが、関係者というのを具体的に記載してほしい。

【久部会長】 ●●等の関係者、とした方がわかりやすいということだと思う。
(2)公園、緑環境、景観について、タイトルが公園・緑環境・景観という実際にやっていることの横並びにみえてしまうので、うるおい溢れるなど、三つの要素を一つのキーワードで表せないか。共通する将来像のようなものがタイトルになった方が良い。

【鐵東委員】 公園の管理は施設の老朽化等もあり難しいと感じている。利用者がけがをした時の責任等の話にもなるので、ともすれば何も起こらないものを作るだけの行政になりかねない。これから、様々な可能性を模索しながら公園の管理を進める必要があり、事業者に委託し、責任を持って公園を運営・管理するといった方式も必要。公園で事故が起こったニュースを見るたびに、公園が無いほうが良いという議論にならないようにと願っている。まだまだ緑が多い環境だが、先を見据えた公園管理や緑の保全とはどういったものかを逆算して考え、様々な手立てを模索しながら管理していく、という内容が計画として見えると良いと思う。

【久部会長】 そもそもタイトルが「空間づくり」で、めざす状態にも「空間」という言葉がある。生駒市もプレイスメイキングを頑張っているが、そのプレイスとは場所のこと。空間なのに場所という言葉が入っていない。

例えば、②公園・緑地等の利活用のところで、身近な交流の場とか交流の場所として公園を位置づけて、市民が積極的にそれを活用しながら交流促進を図りますといったストーリーになると、今取り組んでいるプレイスメイキング、場所ということが出てくる。表現を少し変えると印象が違おうし、鐵東委員がおっしゃったように、市役所だけではなく自分たちの可能性も広がるという意識が出てくると思う。

【田中委員】 公園に求められる機能が多機能になってきていて、例えばコミュニテ

の拠点であったり、生物多様性等、従来の遊ぶだけの公園から様々な機能が付加されてきている。これからのまちづくりには多機能であるということは欠かすことができず、そこに多主体が関わるということなので、パークマネジメントという発想が必要になってくる。

公園の整備計画も含めた初期の段階から、市民とか事業者がある程度関わりながら一緒に作っていくという発想が前提となる必要がある。維持管理、あるいは利用するときだけ市民が関わるというような問題ではない。初期の頃から場づくりや空間づくりを一緒にできるパートナーとして、市民を見据えていただければありがたい。多機能な場所であるがゆえに、他主体が関わる必要性が出てきているので、内容として読み取れるよう検討されたい。

【久部会長】 カタカナが並ぶのと分かりにくいので、できる限り日本語で表現されたい。

公園の利活用に関して、せっかく今まで生駒市は頑張ってきたのに、現在の内容では、他市町村と似たような内容になってしまっている。

プレスメイキングやパークマネジメントを位置づけていることがわかるよう書き振りを工夫していただきたい。

今まで、生駒市が住民と一緒に公園を考えてきた、コミュニティパーク事業がある。そこをもう少し強調すると、より生駒市らしい公園の整備になってくると思う。

もう一点、①のタイトルが緑の質の向上だが、緑の質というのは一体何なのか書ききれていない。緑の質とは何を示していて、その質を向上するために何をするのがわかる書き振りにすると方向性が共有できると思う。

また、(2)のところで公園、緑地は入っているが、バルテラスや道路でもプレイスメイキング的なことを行っている。公共空間を全般的に捉えた話はどこで読み取るのか。他市も抜けがちで、例えば、駅前広場は道路担当課が担当しているという話になると、広場的に利用されている場所は広がっているが、各課でそれぞれの管轄範囲のみ対応することになる。公園はもちろん、広場、交通広場、道路という公共空間で、市民が楽しいイベントやっているとといった話は書くところなくなってしまう。どこに書けるか、どういう形で集約できるかも含めて考えてい

ただきたい。

【久部会長】 (3) 移動しやすいまちづくりについて、ご意見等はあるか。

【楠委員】 持続可能で利便性が高い公共交通の形成というところで、自動車から公共交通を利用した移動とは具体的にどのようにされるのか。

【事業計画課】 現実問題として、すべての市民が車を運転できるというものではなく、また高齢化等による免許返納が進む中で、自家用車で移動される方は間違いなく減っていくという背景がある。

路線バスは利用者数が減り非常に苦しい経営状況にあるが、路線バスだけが公共交通ではなく、本市ではコミュニティバスも走らせているし、地方ではデマンド交通や自家用有償運送を行っている地域もある。

単純に通学通勤だけに活用するものではなくってきており、通院や買い物、もしくは余暇を楽しむというニーズに対して、どのように移動手段を確保していくのか、地域の皆さんがどういうふうに移動したいのか。目的に対してどの交通手段が一番適しているかを、地域と一緒に考えていかないといけないと考えている。

【楠委員】 数年のうちには難しいかもしれないが、もう少し次元を上げたような考え方を持ってくることもできる。例えば、カーシェアリングの促進や、電気自動車の導入支援、自動運転への取組、グリーンスローモビリティの導入等、10年後、20年後の未来を視野に考えるのも一つの手ではないか。

【久部会長】 担当課の話では、公共交通網だけではない多様な手段を組み合わせながら、市民の交通利便性を確保します、向上しますというストーリーになっていた。そういったタイトルにすると、もっと幅が広がって見えると思う。書き振りを変えることによって今の楠委員のご意見を受けられると思うので検討いただきたい。

【事業計画課】 公共交通網は、鉄道、路線バスという民間事業者が主体として思われてしまうが、タクシー事業者もあれば、電気自動車、ゴルフ場のカート

で町内を回るようなグリーンスローモビリティといった電気自動車等、全てを含めたものが公共交通網という概念である。

【久部会長】 楠委員が質問した内容は、他の市民も同じイメージを持たれていると思う。市民が読んだらすぐにわかるような言葉遣いの方が良い。同じ内容でもわかりやすい言葉遣いをするとか、公共交通網とはこういうものだという説明を入れる等、理解しやすい表現にされたい。

【田中委員】 公共交通網の中には入らないかもしれないが、徒歩とか自転車も移動の手段であるが、それは入らないのか。ここにまちづくりとの連携というのがある。公共交通のあり方を考えるときには、まちのあり方とセットで考えないと絶対に達成できないことであって、それがコンパクトなまち、ウォークアブルなまち、移動が容易であるということがベースのようなまちのあり方になってくる。そのまちのあり方と公共交通のあり方は関連しているので、多様な移動手段で考える必要がある。

【久部会長】 茨木市では、国道171号線を走っているバスが15分に1本必ずある。それは、171号線沿いに住宅と事業所の両方が位置しており、各時間帯の需要が見込まれるからであって、土地利用が多様化しているとバスに一定の利用者がいる。

一方で、住宅地である生駒市は通勤・通学のワンウェイにしかならず、公共交通、特にバス事業の衰退に繋がっている。年数はかかるが、利用促進するためには、土地利用を含めて検討を進めていくことも必要である。

【鐵東委員】 まちづくりとの連携や市民、事業者について、この事業者というのは、交通事業の事業者なのか、生駒で事業所を持っている事業者か、どちらの意味なのか。

【事業計画課】 両方であり、市民、沿線の住民の皆さんとバス事業者と行政とで一緒になって、利用促進をどう図っていくかという取組を進めている。第一義はそこであるが、二つ目としては、北田原準工業地域の従業員の方は、各企業が自社専用の送迎バスで朝夕送迎されている。その部分を路

線バス利用に転換していただくことによって利用者を増やしていく事も考えられる。通勤通学で駅に行く路線と、駅から企業に向かう路線の両方で活用されることになる。現状は、ほとんどの路線が、朝は駅に向かうため満員だが、駅から住宅地に戻るバスは空っぽになって、2分の1しか儲けがない。企業が持っている送迎バスをいかに転換していただけるか。これから会議所、工業会と一緒に考えてないといけないと認識している。

【久部会長】 めざす状態について、「空間づくりが進んでいる」では、市が取り組んだことのアウトプットになる。例えば、「快適で安全な空間づくりをすることによって出歩く人が増えている」とか、逆転させるだけでアウトカム指標になる。そういう意味で、取り組んだ成果としてどういう市民生活とか社会像が実現できるかというような目指す状態にしていただければと思う。

【久部会長】 市民や事業所ができることの主な取組イメージについて、ご意見等はあるか。

13の道路整備のところで言い忘れたが、市民・事業者でできることの中に、先ほど申し上げたまちづくりを地域で議論してもらって、それから市役所と一緒に考えるというような、地域で主体的にまちづくりを考えてくださいというような項目があってもよいと思う。

【久部会長】 次に代表的な指標について、指標Ⅲの都市拠点へのアクセス性は、どのようにカウントするのか。

【事業計画課】 生駒市で定めている公共交通計画の中で、各地域から都市拠点の生駒駅、学研北生駒駅、南生駒駅に60分以内に行ける方の割合を目標として定めている。現在3割近い方は、それぞれの拠点に1時間以内に公共交通機関ではたどり着けない状況になっている。

【久部会長】 言葉だけではイメージがしづらいので、カウントの手法を書いておくとかわりやすく、協力してもらえと思う。

【事業計画課】 ご指摘のところについて、令和13年の目標値87.7%は誤植で77.1%に訂正を願う。

【久部会長】 もう一点、指標Ⅱの市民主体の公園利用件数も、何をもって市民主体の公園利用とカウントするのも見えるようにされたい。

【久部会長】 全体会で、施策名の「まちの空間づくり」が分かりにくいという意見があったが、この「まち」をひらがなで書くとソフト面の要素が強くなる。全体会で「まち」を街路の「街」と書いて、ハードが一つのメインだというような「街の空間づくり」との案を出したが、施策名を「街の空間づくり」とし、全体会で意見を伺うことでよいか。

【事務局】 前回、意見を頂いて事務局でも検討した。基本計画を作る中では、例えば「緑のまちづくり」や「まちづくりとの連携」等、ひらがなの「まちづくり」で表現している。言葉が定義できていない状況が懸念事項だと考えている。

【久部会長】 ここはあえて「まちづくり」ではなくて「まちの」なので、他のまちづくりとは仕分けられる。全体会の中で、これを「街」と書いたときに印象が変わっているかどうか確認する。

また、全てを「街づくり」と記載する必要もなく、「花と緑と自然のまちづくり」ならば、修飾語がついているので、何をターゲットにしているかがわかりやすくなっているため問題ない。

経営的施策Ⅲ 広報広聴・シティプロモーション

【久部会長】 (1) 情報発信による開かれた市政運営について、ご意見等あるか。

【鐵東委員】 生駒市は利便性と住環境は良いけれども、生駒駅前が物足りないと感じる若い人が多く、その結果として、都市ブランドにつながっていないことも考えられる。駅前という身近な場所がブランド化されることで、生駒市全体のイメージが変わると思っている。市全体を都市化する必要はないが、駅前だけでも変わることで、生駒いいなとか、住みたいなど

か、そういう気持ちになるのではないか。さらに宝山寺、ケーブルカーという他の街にないコンテンツがある。駅前という身近なところをブランド化することで、自分たちが使いやすい、自分たちが人に勧めやすい、自分たちが誇れるようになる。プロモーションには期待している。

【久部会長】 全体的な論点かと思う。具体的には（３）のところの話がたくさん出てきた。先ほどお話いただいたように生駒駅の南口がどれだけ良いものになっていくかということであり、コンテンツが整ってそれを発信していく事が大切である。

（１）情報発信と（２）広聴活動についても、全ての部署が広報、広聴を行っているわけで、全体のマネジメントをしているのが広報広聴課だと思うので、そういう位置付けで見なければと思う。

（１）に関して、最後の文末が、「まちづくりへの積極的な参加を促します」となっているが、この表現は市民協働の目的に見える。つまり「市政や地域への理解と関心を高め、市民等によるまちづくりへの積極的な参加を進めるために、魅力ある市政情報や地域情報を発信共有します。」としたほうが広報広聴の役割と書き分けができると思う。

【久部会長】 では（２）広聴活動の充実について、関西各地で、いわゆる井戸端会議的な会合の立ち上げを支援している。なぜそういった会合が必要かという、わざわざ市役所に行くまでもないちょっとしたことがあったときに、話しを聞ける場所があればよいということである。わざわざ感のないような広聴活動のようなものも表現できると良いと思う。

行政対市民の構図になると文句につながりやすいので、もう少し穏やかな段階でみんなが仲良くなって、まちのことを考える、意見を言い合える場所があってもいいと思い取り組んでいる。市民との協働は重要で、常に市民と接している職員は、様々なところで声を聞くチャンスがあるので、そういう職員を増やして、広聴活動を充実させるということも重要である。

【久部会長】 （３）暮らす価値があるまちとしての都市ブランド構築について、ご意見等あるか。

【楠委員】 環境モデル都市やSDGs未来都市、脱炭素先行地域に選定されたことで、全国から注目されており、生駒ならではの素晴らしいブランドだと思う。脱炭素先行地域に選定されてからの5年間は、一層注力して取り組むべきだと思う。脱炭素先行地域の選定に際して、他地域でできなかった市民団体が中心となった活動が、なぜ生駒市でできたのかと聞かれる。これまでの10年間の取組や伝統が基本になっているからできていると感じている。

住みやすいまちかどうかは必要だが、もう少し生駒ならではの大きい次元で考えて、全国規模で生駒市が先頭に立っている環境に関するところは都市ブランドになると思う。これまで培った生駒市の素晴らしさだと思うので、ぜひもっと強調して市民に訴えて欲しい。

【久部会長】 ここには「多様な主体と生駒の魅力を創出・発信する」と書いているので、同じ意味のものになっていると思う。

生駒を、一言で表すキーワードやキャッチフレーズが、まだ見つかっていないということではないか。近鉄電車に乗っていると、吊り広告で「ITADAKI」が目にとまった。「ITADAKI」とは何かと思えば、生駒山上遊園地の施設のことだった。生駒山上遊園地よりも、「ITADAKI」と言われた方が、短い言葉で印象に残る。同じように生駒市を表すキャッチフレーズで、環境でも市民活動でも何かそういう尖ったものが一つあって、「それを言ったら、これは生駒だな」と言わせるようなものがあれば、よりブランド力や発信力が強くなってくるので、そこを集中的に考えていく4年間でもあるのかと思った。

【久部会長】 (4) 市域への来訪者誘引について、ご意見等あるか。

【田中委員】 2,000人のアンケートの結果について、44%程度が生駒市を知らないという説明があった。自分が住んでいる市の近隣市を知らないことはないと思うが、この44%をどのように分析しているのか。また、これをどのようにシティプロモーションに繋げていくのか。

【広報広聴課】 このアンケートは、転入促進ターゲットの25歳から44歳の働き盛り世代で、生駒市から20キロ圏内に住んでいる街の人に聞いた。

居住に繋げるには、まずは未認知層を認知層に、次は認知層を興味関心層にする。そして、興味関心層に生駒を繰り返し体験してもらい、転入し定住してもらおう。そのあと、定住者をファン化するという流れで取り組んでいる。

過去に都市イメージについてのアンケートを実施する中で、市の居住意欲に繋がっているのは市のイメージであって、市の認知度ではないという結果が出ていたので、広報広聴課では、イメージを豊かにする取組に注力していた。昨年初めて2,000人にアンケートを実施し、生駒市という名前は知っているが、名前しか知らない人の割合が44%もいた。このため、市の名前以外のことも知ってもらう取組を市として戦略的に行わないと興味関心層が増えていかないので、これを市として考える必要がある。

【田中委員】 主な課題の「機能的な価値にとどまらず心理的な価値を軸にした情報編集により、都市のイメージをより豊かに発展させる」というところに繋がっていくということかと思う。心理的価値とはどういったことか。また、グッドサイクルいこまについて、心理的な価値を軸にした情報編集で、編集方法など工夫されている点はあるのか。

【広報広聴課】 まず、心理的な価値については、大手広告代理店が県庁所在地全ての都市ブランドを調査したアンケート調査がある。その中で、都市ブランド力がある神戸市や横浜市は、他市と比較して固有名詞の想起に留まらず「美味しそう」「行ってみたい」「憧れる」「おしゃれ」などの心理的な言葉や行動意欲までがイメージされているという傾向があった。

本市も生駒山、住宅都市、子育て・教育環境に力を入れているといったことがイメージされるが、「だから行ってみたい」、「だから住んでみたい」、「だから働いてみたい」という心理的な気持ちを誘引するような情報発信が必要であるため、このように記載した。

グッドサイクルいこまでは、主体的に暮らす市民の皆さんや店舗等を主語にして、生駒で暮らす喜びを伝えている。

【田中委員】 島原万丈氏が言っている「センシュアス・シティ」という言葉がある。感覚的にその街を捉えている尺度のようなものを評価して、都市のイメ

ージをランク付けしているものに近いと感じる。基本はそういうことを重ねながら、ゆくゆくは生駒に住んでもらうという発想で良いか。

【広報広聴課】 その通りである。

【久部会長】 生駒市という街を端的に表すキャッチフレーズが4年後できたらよいと期待している。

生駒市の商工観光ビジョンにも関わっているが、生駒は従来型の観光資源で誘客するというのは弱い。一方で、SDGs未来都市や脱炭素先行地域、各種市民活動も誘客に活用できるのではないかと考えている。そういう生駒ならではのものを誘客装置、資源として使っていく、全部カウントできるようにしていくというメッセージがあると良いと考えている。

生駒市役所の仕事も誘客に繋がるとよい。市役所の仕事に興味があるとか職員になりたい人たちが、生駒市職員として住居も移してくる。そういう様々なものが誘客装置として使えると思うので、生駒ならではの誘客が進むことを期待している。

【久部会長】 めぎす状態について、次の年からの評価のことを考えると、この最後に「意欲が増えている」と書くと評価しづらくなるか。意欲はカウントしないので評価がしづらいと思う。ここは素直に、「行動する人が増えている」として、人をいろいろな形でカウントすれば良い。

他になければ、これで審議を終了する。

【事務局】 (庶務連絡、閉会宣告)

—— 了 ——